

ILFOCOLOR C41

COLOR NEGATIVE FILM DEVELOPING KIT

ILFORD

ILFOCOLOR C41 2.5Lキットは、ロータリー式自動現像機、小型リール現像及び深タンク現像処理用に設計されたカラーネガフィルム用現像処理液キットです。

各処理液は濃縮液となっており、最大2.5Lの使用液を作成することができ、1キットで最大40本までのカラーネガフィルム(135-36exp、120)を処理することが可能です。環境負荷を抑えたILFOCOLOR C41キットは、カラーネガフィルムの処理において、高品質のパフォーマンスを提供します。

1. ILFOCOLOR C41キット内容

処理液	薬品	ボトル数	原液容量	使用液	処理本数
発色現像液	N1 : CD Part-A	1	250ml x 1	2.5L用	40本/ 135-36exp、120
	N1 : CD Part-B	1	200ml x 1	2.5L用	
	N1 : CD Part-C	1	25ml x 1	2.5L用	
漂白液	N2 : BL	1	1250ml x 1	2.5L用	
定着液	N3 : FX	1	525ml x 1	2.5L用	
安定液	N4 : STB	1	25ml x 1	2.5L用	

- ・上記の原液を水で希釈する事で、各処理剤の使用液が2.5L作れます。
- ・必要な使用液量に合わせて、原液を量り分けて使用することができます。
- ・現像液(N1:CD)は、Part-A,B,Cの3本のボトルに別れています。
- ・各薬品の注意点、容器の材質等は各容器のラベルに記載されています。

2. 使用液の作り方

＊注意事項

- ・原液を溶解する水は、規定量の水道水を正確に計り取り、30±5°C程度に温めてから使用してください。
- ・溶解後の使用液をしばらく保存する場合は、密閉性のある容器で保管してください。
- ・発熱や有害なガスの発生の原因となりますので、決められた組み合わせ以外の処理剤を混合しないでください。
- ・現像液(N1:CD)の原液及び使用液に、その他の処理液が少量でも混入すると、適正な写真性能が得られなくなります。

ILFOCOLOR C41

COLOR NEGATIVE FILM DEVELOPING KIT

ILFORD

2.5Lの使用液を作成する場合

処理液	薬品	水	Part-A	Part-B	Part-C	合計
発色現像液	N1 : CD	2025ml	+ 250ml	+ 200ml	+ 25ml	= 2500ml
漂白液	N2 : BL	1250ml	+ 1250ml			= 2500ml
定着液	N3 : FX	1975ml	+ 525ml			= 2500ml
安定液	N4 : STB	2475ml	+ 25ml			= 2500ml

- ・ 現像液の溶解は、水2025mlへN1:CD part-A 250ml (1ボトル) を加え攪拌し、溶液がクリアになってからN1:CD part-B 200ml (1ボトル) を加え攪拌し、さらにクリアになってからN1:CD part-C 25ml (1ボトル) を加えよく攪拌することで、2500mlの使用液となります。
- ・ 漂白液は、1250mlの水へN2:BL 1250ml (1ボトル) を溶解することで、2500mlの使用液となります。
- ・ 定着液は、1975mlの水へN3:FX 525ml (1ボトル) を溶解することで、2500mlの使用液となります。
- ・ 安定液は、2475mlの水へN4:STB 25ml (1ボトル) を溶解することで、2500mlの使用液となります。
- ・ 作成した使用液は、セクション4の表の通り、保管することが可能です。
- ・

1.25Lの使用液を作成する場合

処理液	薬品	水	Part-A	Part-B	Part-C	合計
発色現像液	N1 : CD	1012.5ml	+ 125ml	+ 100ml	+ 12.5ml	= 1250ml
漂白液	N2 : BL	625ml	+ 625ml			= 1250ml
定着液	N3 : FX	987.5ml	+ 262.5ml			= 1250ml
安定液	N4 : STB	1237.5ml	+ 12.5ml			= 1250ml

- ・ 処理するフィルムの本数に合わせて、原液及び水を量りわけて、作成する使用液の量を調整することができます。
- ・ 1.25Lの使用液にて、最大20本までのフィルムを処理することができます。
- ・ 残った原液は、元のボトルにて密閉して保管してください。

1Lの使用液を作成する場合

処理液	薬品	水	Part-A	Part-B	Part-C	合計
発色現像液	N1 : CD	810ml	+ 100ml	+ 80ml	+ 10ml	= 1000ml
漂白液	N2 : BL	500ml	+ 500ml			= 1000ml
定着液	N3 : FX	790ml	+ 210ml			= 1000ml
安定液	N4 : STB	990ml	+ 10ml			= 1000ml

- ・ 少量のフィルムを処理したい場合は、できるだけ少ない使用液を準備することが可能です。
- ・ 上記の表は、1Lの使用液を作成する場合を示しています。16本のフィルムを処理することができます。
- ・ さらに少量のフィルムに合わせて使用液を作成する場合は、水と原液の比率を計算してください。ただし、処理機材の仕様によって最低処理液量が必要になります。

ILFOCOLOR C41

COLOR NEGATIVE FILM DEVELOPING KIT

ILFORD

3. 処理条件

処理工程	薬品	処理温度(°C)	135-36exp・120の処理本数と処理時間			
			1~4本目	5~8本目	9~12本目	13~16本目
発色現像	N1: CD	38.0 ± 0.3	3'15"	3'30"	3'45"	4'00"
漂白	N2: BL	38 ± 3	6'30"	7'00"	7'30"	8'00"
定着	N3: FX	38 ± 3	4'20"	4'20"	4'20"	4'20"
水洗	流水	24~41	3'00"	3'00"	3'00"	3'00"
安定	N4: STB	24~41	1'00"	1'00"	1'00"	1'00"

- ・ 現像器具により又現像液量により、現像液温の低下が起きる場合があります。この場合はフィルムをセットしたタンクに 38°C の水を入れ、5 分間程度放置後に水を捨ててから現像を開始してください。
- ・ 上記の表は、基本処理条件で各使用液を 1L 使用した場合の処理能力の目安です。
- ・ 処理したフィルム本数によって、処理時間が異なります。
- ・ 現像 (N1:CD) の処理時間は、現像方法や機材の仕様によって、修正する必要があるかもしれません。
- ・ 漂白 (N2:BL) 終了までは、全暗黒にて処理する必要があります。
- ・ 表示されている処理時間は、約10秒間の液切時間を含んでいます。
- ・ 処理したフィルムのベースの色に異常がある場合は、現像液に漂白液あるいは定着液が混入したおそれがあります。

4. 保存条件

処理液	薬品	開封済み原液	使用液
発色現像液	N1: CD	12 週間	1 週間
漂白液	N2: BL	24 週間	24 週間
定着液	N3: FX	24 週間	24 週間
安定液	N4: STB	24 週間	24 週間

- ・ 開封後の原液は、元の容器でしっかりと密栓し、冷暗所で保管してください。

製品仕様は予告なく変更する場合があります。会社名、商品名は各社の商標、または登録商標です。

2019.11